

Ⅱ-5 樹林調査

1. 樹林の現況

(1) 区全体の現況

	(H16)		(H26)
○樹林の樹木被覆地に占める割合	50.0%	→	51.3%
○樹林面積	1,096,839 m ²	→	1,151,720 m ²

樹木被覆地の面積規模別の現況と経年変化を表Ⅱ-5-1に、300 m²以上の樹木被覆地（以下樹林という）の分布図を図Ⅱ-5-1にそれぞれ示す。

面積規模別では、300 m²未満が1,094,740 m²でもっとも多く、構成比は48.7%を示す。

樹林は、1,039 箇所、1,151,720 m²であり、これは本区の樹木被覆地面積の51.3%にあたる。

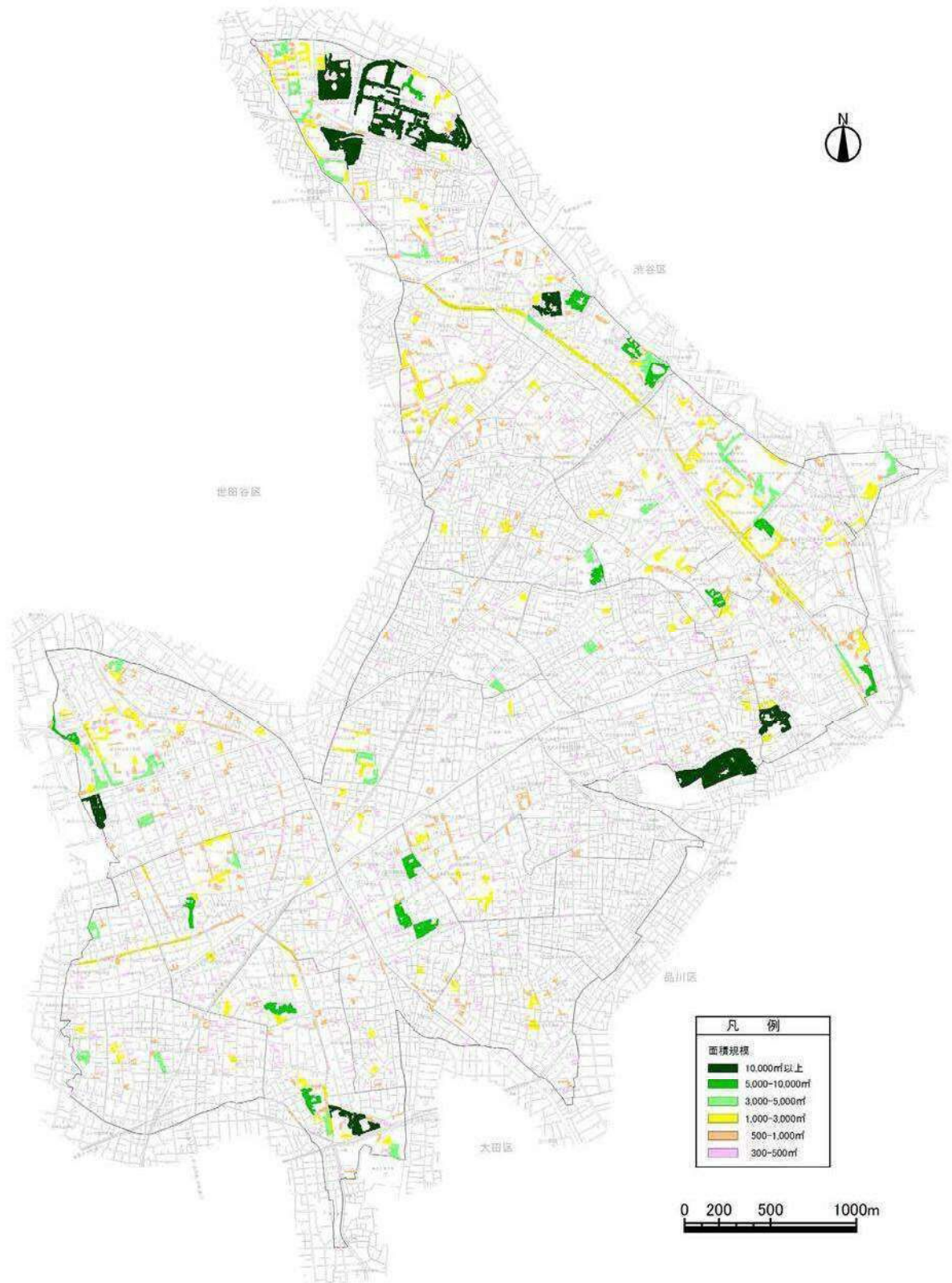
樹林の面積規模では、1,000～3,000 m²、10,000 m²以上の構成比が多く、5,000～10,000 m²、3,000～5,000 m²の構成比が少なくなっている。

前回調査（2004（平成16）年度）から、樹林の箇所数が59箇所減少したが、面積は54,881 m²増加した。面積規模5,000～10,000 m²の樹林については6箇所、57,571 m²、500～1,000 m²の樹林では37箇所、22,063 m²、300～500 m²の樹林では41箇所、9,554 m²の減少がみられる。

一方、10,000 m²以上の面積規模では、箇所数は変わらず82,224 m²の増加がみられ、1,000 m²～5,000 m²の規模でも箇所数・面積とも増加傾向を示している。

表Ⅱ-5-1 樹木被覆地の面積規模別の現況と経年変化

面積規模		平成16年度調査		平成26年度調査		増減		
		箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(m ²)	箇所数	面積(m ²)	
樹木被覆地	樹林	10,000m ² 以上	8	174,358	8	256,462	0	82,104
	5,000～10,000m ²	21	156,221	15	98,650	-6	-57,571	
	3,000～5,000m ²	28	107,020	33	125,269	5	18,249	
	1,000～3,000m ²	146	222,913	166	266,629	20	43,716	
	500～1,000m ²	339	227,001	302	204,938	-37	-22,063	
	300～500m ²	556	209,326	515	199,772	-41	-9,554	
	小計	1,098	1,096,839	1,039	1,151,720	-59	54,881	
	300m ² 未満	-	1,095,626	-	1,094,740	-	-886	
合計	-	2,192,465	-	2,246,460	-59	53,995		



図II-5-1 樹林分布図 (300 m²以上の樹木被覆地)

(2) 地区・住区別の現況

	(H16)		(H26)
○樹林面積の大きい地区	北部地区	→	北部地区
小さい地区	中央地区	→	中央地区
○樹林面積の大きい住区	駒場住区	→	駒場住区
小さい住区	向原住区	→	向原住区

地区別、住区別の樹林の規模別構成と経年変化を図Ⅱ-5-2、図Ⅱ-5-3に示す。

地区別の樹林をみると、樹林の面積は、北部地区（399,644 m²）、西部地区（294,686 m²）、東部地区（284,693 m²）で大きく、中央地区（81,441 m²）、南部地区（91,256 m²）では小さい。

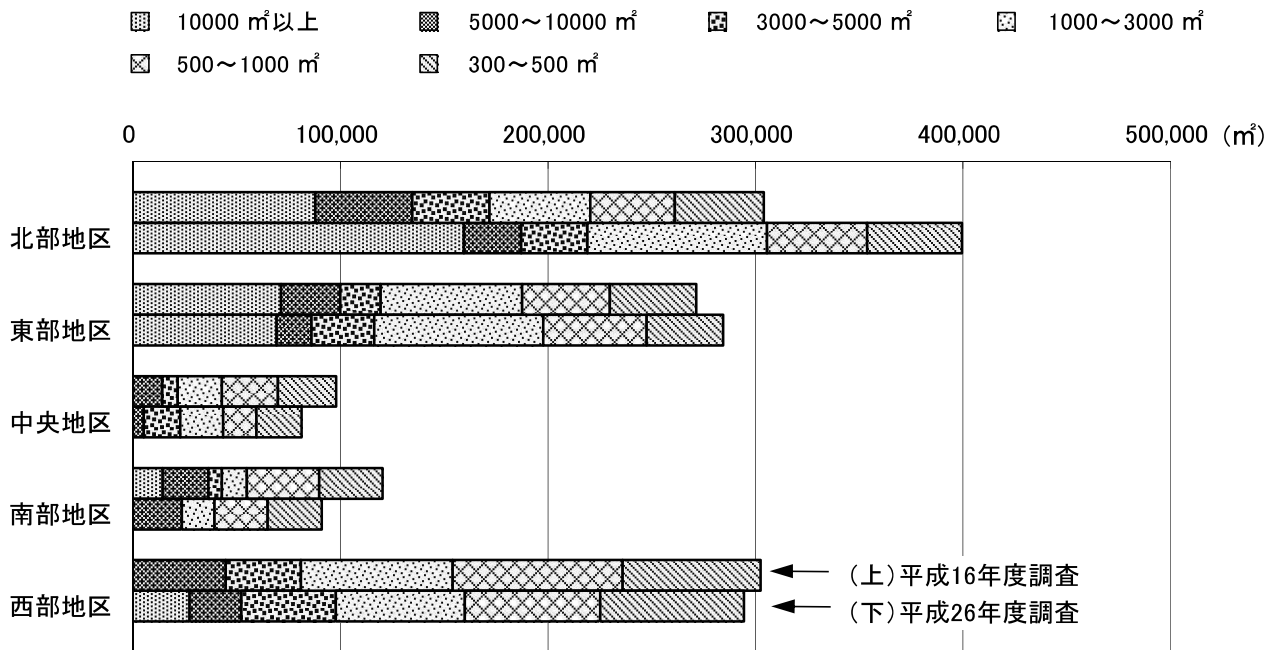
北部地区と東部地区では、5,000 m²以上の大規模な樹林が占める面積割合が大きく、樹林面積の小さい中央地区や南部地区では、10,000 m²以上の樹林が分布していない。また、5地区の中で樹木被覆地がもっとも多い西部地区では、大規模な樹林は少ないが、中規模・小規模な樹木被覆地が多い。

前回調査（2004（平成16）年度）と比較すると、樹林面積は北部、東部地区で増加、中央、南部、西部地区で減少している。特に北部地区での増加（95,359 m²）が顕著で、10,000 m²以上の樹林の増加が大きく影響している。

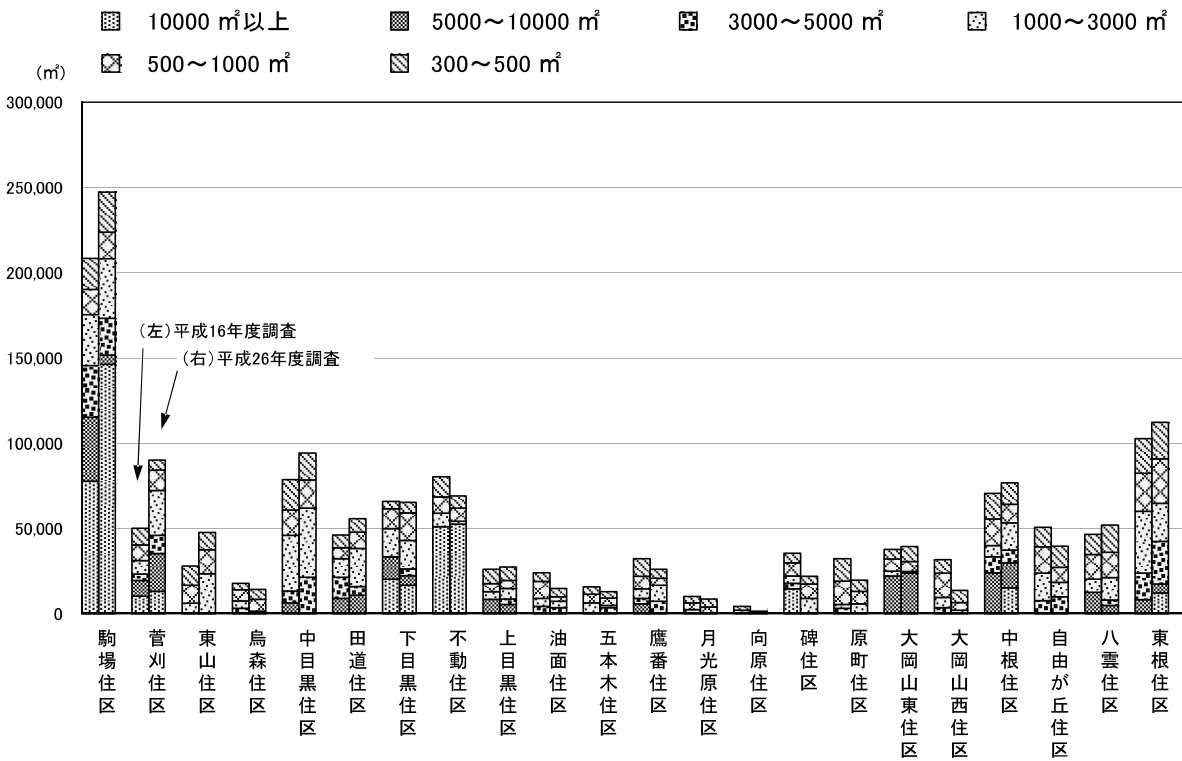
住区別の樹林をみると、駒場、東根、中目黒、菅刈、中根住区の樹林面積が大きく、特に駒場住区（247,304 m²）は突出している。

一方、向原、月光原、五本木、大岡山西住区では樹林面積が小さい。樹林の規模でみると、駒場、不動、大岡山東住区は、5,000 m²以上の大規模樹林の占める割合が大きい。中目黒、鷹番住区は、1,000～5,000 m²の中規模程度の樹林の占める割合が大きく、向原、月光原住区は300～1,000 m²の小規模な樹林のみで占められている。

前回調査と比較すると、ほぼ半数の住区で面積が増加し、半数で減少している。特に、菅刈住区で大きく増加（40,008 m²）しており、大岡山西住区で最も大きな減少（18,078 m²）がみられる。



図II-5-2 地区別の樹林面積の経年変化



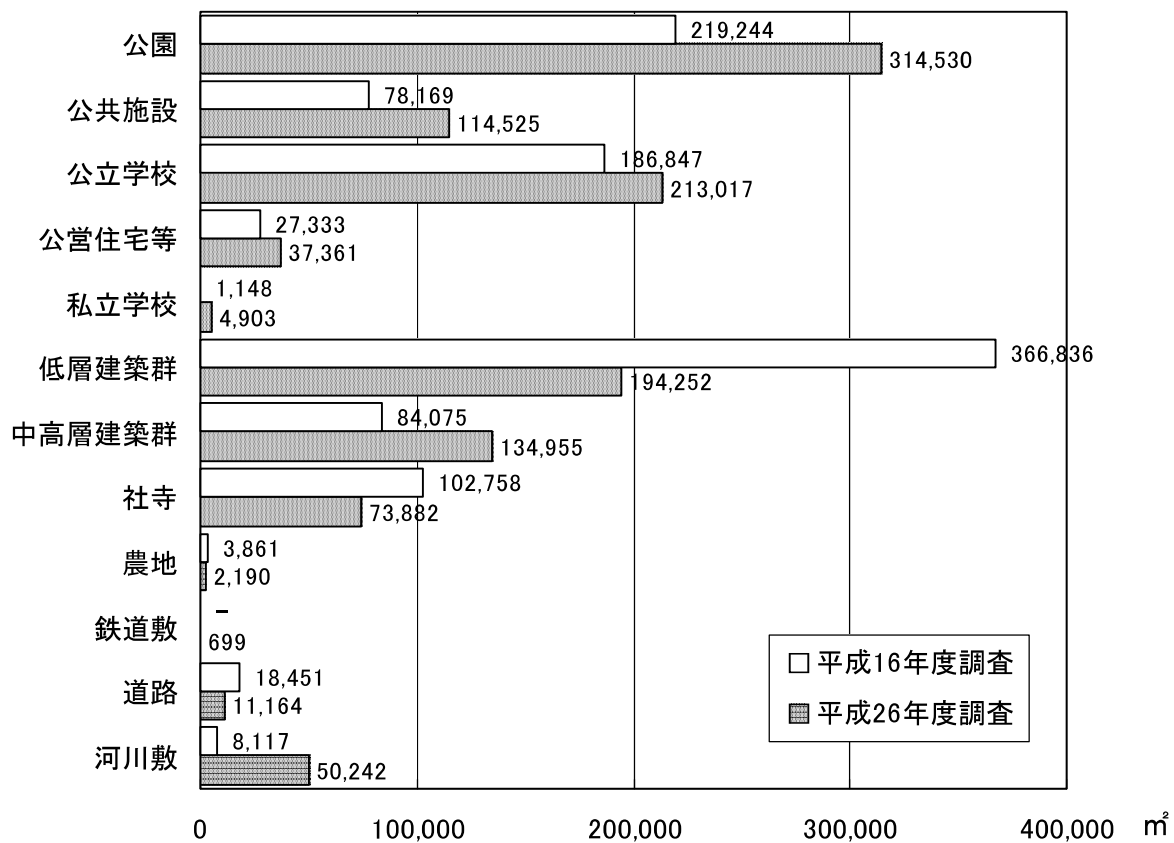
図II-5-3 住区別の樹林面積の経年変化

(3) 土地利用区分別の現況

	(H16)		(H26)
○樹林面積の大きい土地利用区分	低層建築群	→	公園
小さい土地利用区分	鉄道敷	→	鉄道敷

土地利用区分別の樹林面積の経年変化を図Ⅱ-5-4に、土地利用区分別の樹林状況を表Ⅱ-5-2にそれぞれ示す。面積が10,000㎡以上となる規模の大きな樹林は、公園および公立学校、社寺に限られる。低層建築群、中高層建築群で1,000㎡未満の樹林箇所数が多い。

前回調査と比較して、公園の樹林面積が大幅に増加(95,286㎡)している。一方、低層建築群での樹林の減少が最も顕著(172,584㎡)である。



図Ⅱ-5-4 土地利用区分別の樹林面積の経年変化

表Ⅱ-5-2 土地利用区別の樹林状況

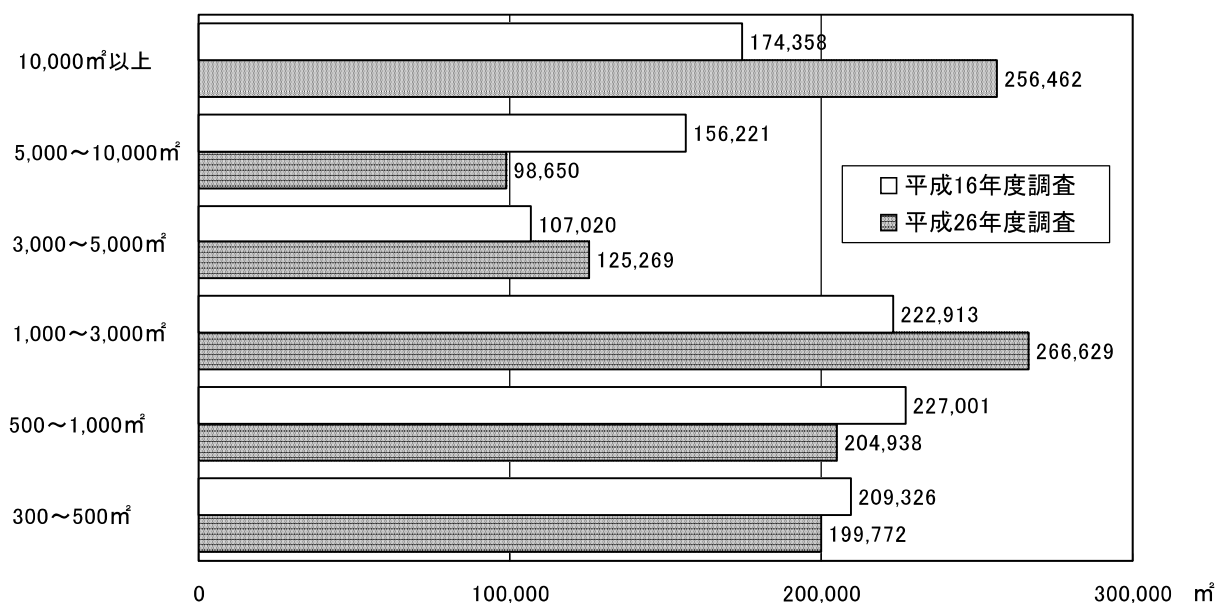
土地利用区分	面積区分(箇所)						合計 (箇所)	土地利用の 箇所数別 構成比(%)	合計面積 (㎡)	土地利用の 面積別 構成比(%)
	300~ 500㎡	500~ 1,000㎡	1,000~ 3,000㎡	3,000~ 5,000㎡	5,000~ 10,000㎡	10,000㎡ 以上				
公園	62	53	32	9	4	5	165	15.9	314,530	27.3
公共施設	32	26	23	9	1	0	91	8.8	114,525	9.9
公営住宅	27	15	8	1	0	0	51	4.9	37,361	3.2
公立学校	65	35	22	5	2	2	131	12.6	213,017	18.5
私立学校	7	4	0	0	0	0	11	1.1	4,903	0.4
低層建築群	187	79	31	3	2	0	302	29.1	194,252	16.9
中高層建築群	109	62	18	1	3	0	193	18.6	134,955	11.7
社寺	16	8	10	3	3	1	41	3.9	73,882	6.4
農地	1	2	0	0	0	0	3	0.3	2,190	0.2
鉄道敷	0	1	0	0	0	0	1	0.1	699	0.1
道路	7	8	1	0	0	0	16	1.5	11,164	1.0
河川敷	2	9	21	2	0	0	34	3.3	50,242	4.4
区全体	515	302	166	33	15	8	1039	100.0	1,151,720	100.0

2. 樹林の変化要因

前回調査と比較した樹林面積の面積規模別経年変化を図Ⅱ-5-5に示す。

5,000~10,000㎡の樹林が減少した分は、樹木の成長や、新たな緑地の創出により周辺の緑地と一体化し、10,000㎡以上の緑地が形成されたと考えられる。また、300~1,000㎡の樹林の減少については、樹林が細分化されたことが要因と考えられる。

一方、1,000~5,000㎡の樹林は保全されていることが分かる。

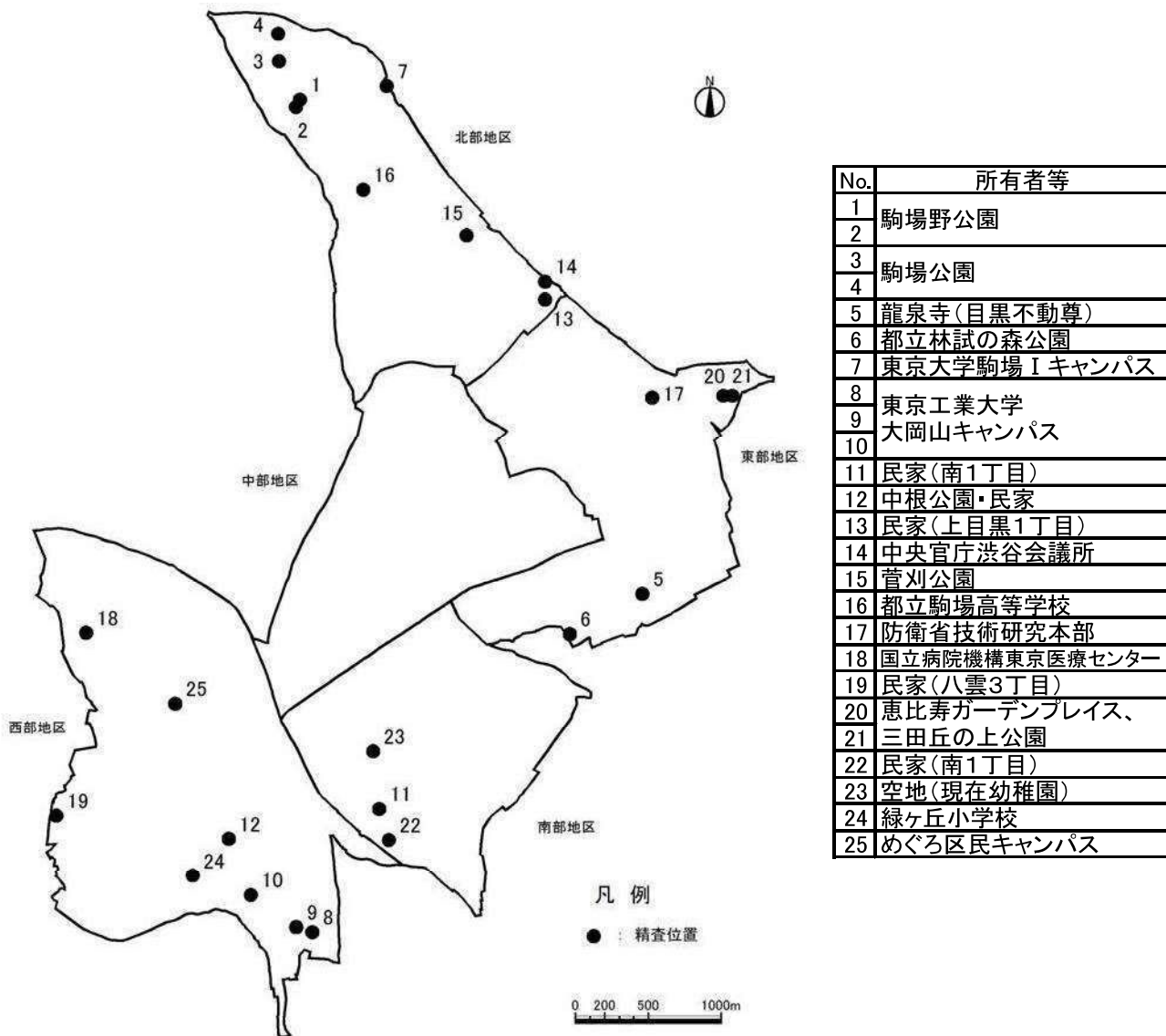


図Ⅱ-5-5 面積規模別樹林面積の経年変化

3. 良好な樹林

前々回調査（1992（平成4）年度）調査において、比較的良好と思われる樹林125箇所を抽出し、そのうち森林形態をなす（高木層から低木層までのすべての階層を有する）良好な樹林15樹林（19地点）を*1環境保全林等の候補地の精査対象として植生調査を実施している。前回調査（2004（平成16）年度）では、5樹林（6地点）を候補地として追加調査を行った。

今回は、前回まで調査している20樹林（25地点）について、空中写真上での現況比較の追跡精査を行った。その精査地点を図Ⅱ-5-6に示す。



図Ⅱ-5-6 良好な樹林の精査地点位置図

*1 環境保全林：資料編 P.164 用語集(15)参照

精査対象である15樹林(25地点)について経年変化の結果を表Ⅱ-5-3に示す。

8地点(9樹林)では、その植生に大きな変化はなかった。2地点(2樹林)では樹林の縮小があった。

表Ⅱ-5-3 精査対象地点の経年変化

精査地点 番号	所有者等	地区	住区	町丁目	H16樹林 面積(m ²)	H26樹林 面積(m ²)	増減 (m ²)	経年変化
1	駒場野公園	北部	駒場	駒場2	13,309	26,232	12,923	多くの樹木が結合され大きな樹林形成がなされた
2	駒場野公園	北部	駒場	駒場2	-	-	-	(精査地点番号1と同一の樹林である)
3	駒場公園	北部	駒場	駒場4	29,836	35,396	1,272	大きな変化はない
4	駒場公園	北部	駒場	駒場4	4,288	-	-	(精査地点番号3と同一の樹林である)
5*	龍泉寺(目黒不動尊)	東部	下目黒	下目黒3	21,204	19,841	-1,363	若干の伐採があり縮小(約1,300m ² の縮小)
6	都立林試の森公園	東部	不動	下目黒5	52,861	52,737	-124	大きな変化はない
7	東京大学駒場Iキャンパス	北部	駒場	駒場3	8,145	86,612	78,467	多くの樹木が結合され大きな樹林形成がなされた
8	東京工業大学大岡山キャンパス	南部	中根	大岡山2	3,382	15,234	2,261	一部で地表変化があったが樹木が成長した
9	東京工業大学大岡山キャンパス	南部	中根	大岡山2	9,591	-	-	(精査地点番号8と同一の樹林である)
10	東京工業大学大岡山キャンパス	南部	中根	緑が丘1	1,709	7,044	5,335	多くの樹木が結合され大きな樹林形成がなされた
11	民家(南1丁目)	南部	原町	南1	744	1,462	718	農地含め樹林地は残っている
12	中根公園・民家	南部	中根	中根2	9,320	10,117	797	大きな変化はない
13	民家(上目黒1丁目)	北部	菅刈	上目黒1	9,087	12,993	3,906	多くの樹木が結合され大きな樹林形成がなされた
14	中央官庁渋谷会議所 (旧朝倉家住宅)	北部	菅刈	青葉台1	11,269	10,381	-888	大きな変化はない
15	菅刈公園	北部	菅刈	青葉台2	4,113	14,898	10,785	多くの樹木が結合され大きな樹林形成がなされた
16*	都立駒場高等学校	北部	駒場	大橋2	7,463	6,204	-1,259	東側で樹林縮小(約1,200m ² の縮小)
17	防衛省技術研究本部	東部	中目黒	中目黒2	9,723	9,462	-261	大きな変化はない
18	国立病院機構東京医療センター	南部	東根	東が丘2	5,875	6,432	557	枝張りが大きくなった
19	民家(八雲3丁目)	南部	自由が丘	八雲3	218	218	0	大きな変化はない
20	恵比寿ガーデンプレイス、 三田丘の上公園	東部	田道	三田1	9,407	5,168	-5,094	樹林が分割され縮小
21	恵比寿ガーデンプレイス、 三田丘の上公園	東部	田道	三田1	855	-	-	(精査地点番号20と同一の樹林である)
22	民家(南1丁目)	南部	原町	南1	807	673	-134	建物が建てられ、一部消失
23*	空地	南部	大岡山東	碑文谷3	1,232	0	-1,232	幼稚園が新設され、樹林がほとんど伐採された
24	緑ヶ丘小学校	西部	自由が丘	緑が丘3	712	1,186	474	大きな変化はない
25	めぐろ区民キャンパス	西部	八雲	八雲1	3,124	3,030	-94	大きな変化はない

注) *は樹林縮小箇所